

## コダマシーンキュレーションによるアートプロジェクト

常盤橋タワー（東京駅日本橋口前）内に 18 のアート作品設置

横山 修	ワン・イー	ジェイコブ・ハシモト	大庭 大介	ラファエル・ローゼンダール	ジョン・ヘリオン
タン・ジエ	キギ	桑田 卓郎	横山 裕一	宮田 彩加	NEW LIGHT POTTERY
荒牧 悠	品川 亮	森山 茜	鈴木 啓太 (PRODUCT DESIGN CENTER)	吉野 もも	長坂 常 (スキーマ建築計画)

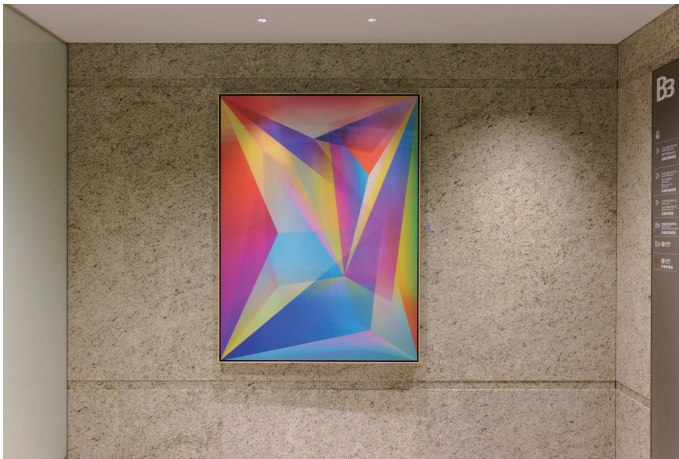
2021年7月、東京駅前の新しい顔としてオープンする商業施設兼オフィスビル「常盤橋タワー」に、上海を拠点とするアートとデザインの企画・開発ユニット、コダマシーン（金澤韻+増井辰一郎）のキュレーションおよびディレクションにより、18組のアーティストによるパブリックアート作品が設置されます。

コンセプトは「伝統の中に光る奇想の系譜」

一般入場可能エリアでは、18のアート作品のうち、7作品をご覧いただけます。

＊常盤橋タワーのオフィスエリアは7月19日（月）より開業、商業施設「TOKYO TORCH Terrace（トウキョウトーチテラス）」は一部店舗が7月21日（水）より営業時間を短縮してプレオープンします。

◆ B3F 来客用 EV ホール



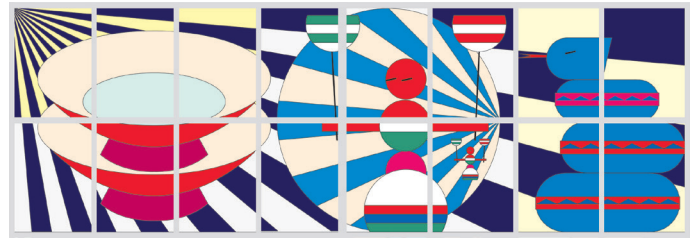
Courtesy of Rafaël Rozendaal and Takuro Someya Contemporary Art.

ラファエル・ローゼンダール  
《Into Time 20 08 13》(2021)



Photo: Christina Latina, 2020, Maine, US

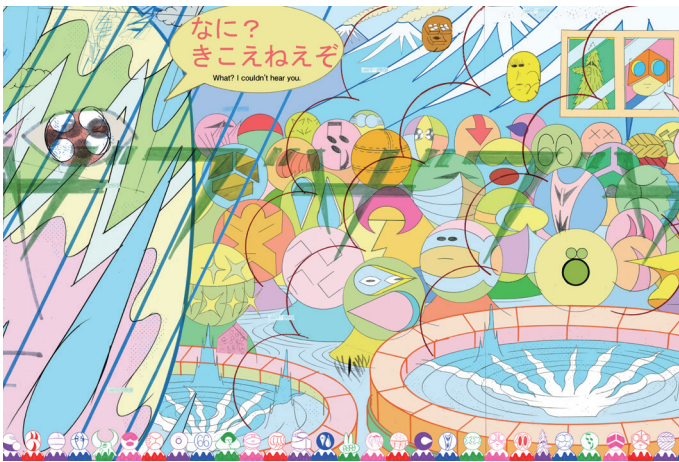
◆ 1F TOKYO TORCH Terrace



KIGI  
《マフレ！セカイ》(2021)  
(完成イメージ)



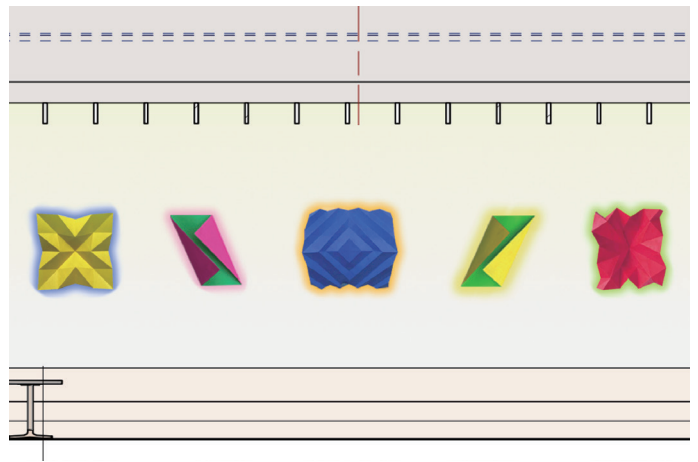
◆ 2F TOKYO TORCH Terrace



横山裕一  
《ふろば》(2021) (下絵、部分)



◆ 3F MY Shokudo Café



吉野もも  
《Kami》シリーズ (2021) (展示イメージ)



Photo: DAISUKE OMORI

◆ 3F MY Shokudo Dining



Akane Moriyama

森山茜  
《スペクトラム》(2021)



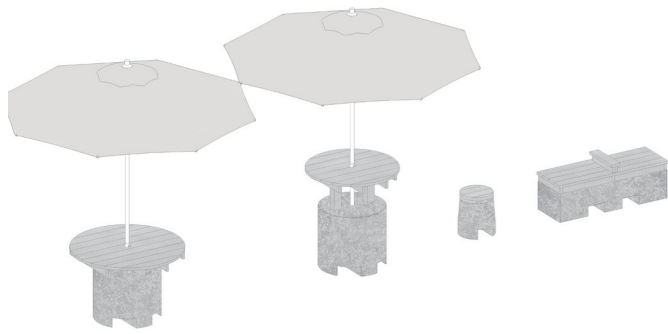
◆ 3F MY Shokudo Sakaba



鈴木啓太 / Product Design Center  
《ISHIGAKI》(2021) (完成イメージ)



◆ TOKYO TORCH Park

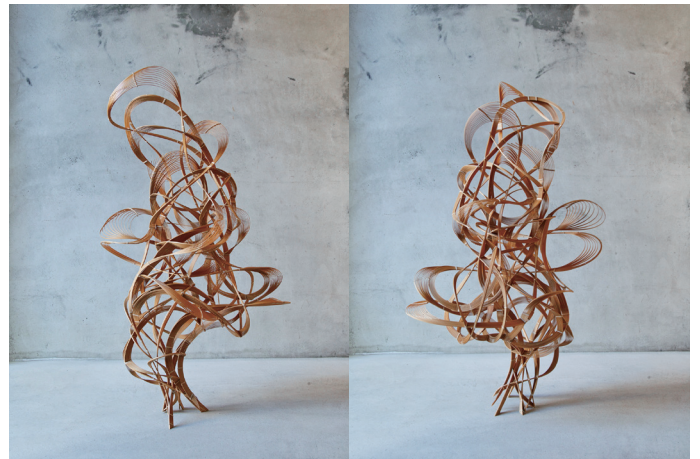


長坂常 / スキーマ建築計画  
《ベンチ / テーブル / ツール for TOKYO TORCH Park》 (2021) (完成イメージ)

Photo: Yuriko Takagi



◆ B4F オフィスエントランス※



Osamu Yokoyama, Courtesy of A Lighthouse called Kanata

横山修  
《aqua II》 (2021)



◆ B4F オフィス EV ホール※



Courtesy of Wang Yi and AIKE, Shanghai

ワン・イー  
《地中の日の出》 (2021)



◆ B3F オフィスエントランス※



Jacob Hashimoto

ジェイコブ・ハシモト  
《The Universal Constraints of Memory and Madness》 (2021)



Photo: Anna Weirzbicka

◆ B3F オフィス EV ホール※



Daisuke Ohba Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE Photo by Nobutada Omote

大庭大介  
《6》 (2021)



Photo: You Ishii

◆ 1F オフィス EV ホール※



ジョン・ヘリオン  
《A Line of the Projection》 (2021)  
(完成イメージ)



◆ 1F オフィスエントランス※



タン・ジエ  
《うんぬん》(2021) (完成イメージ)



◆ 2F オフィスロビー※



Courtesy of KUWATA Takuro and Kosaku Kanechika

桑田卓郎  
《陶木》(2021)

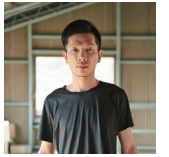


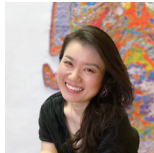
Photo: Koho Kotake

◆ 8F 常盤橋タワーラウンジ※



MIYATA Sayaka

宮田彩加  
《WARP - ポピーを形成するプロット -》  
(2015-2021) (部分)



◆ 8F 常盤橋タワーラウンジ※



NEW LIGHT POTTERY  
《overlay》(2021) (完成イメージ)

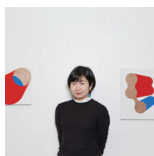
NEW LIGHT POTTERY

◆ 8F 常盤橋タワーラウンジ※



ARAMKI Haruka

荒牧悠  
《青と赤の構成》(2021)

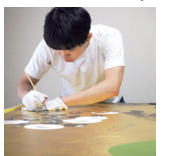


◆ 9F The Premiere Floor ※



SHINAGAWA Ryo

品川亮  
《白椿》(2021)



## ■キュレーションコンセプト

### 伝統の中に光る奇想の系譜

日本の文化というと「ZEN」や「わびさび」など静謐でミニマムな側面が想起されますが、歌舞伎や日本各地の祭り、またアキハバラなど、エキセントリックで鮮烈で、どこか異次元の感覚を喚起する動的な側面もあります。今回はこの、日本文化の中でも特に華やかで奇想的なエレメントにフォーカスしました。

常盤橋の文化的コンテクストを踏まえ、陶、漆、竹、日本画など長い時間をかけて醸成された創作技術の上に現代的表現を模索する作家を多数採用。また TOKYO TORCH の未来志向に沿った持続可能な社会のビジョン、そしてグローバルな視点を軸に、40 代以下の作家に重点を置いて全 18 組を選びました。

歴史と文化の奥深いレイヤーと、変化する時の流れ、そして未来予報が交錯する常盤橋を、力強く表現するアートコレクションです。

## ■ TOKYO TORCH Terrace (商業エリア) 3F MY Shokudo ディスプレイエリア

カフェ、ダイニング、バー、ラウンジなどがある 3F MY Shokudo の 7 箇所ディスプレイも手掛けました。

\* 3F MY Shokudo は 8 月中旬より運営開始。一部は終日一般利用者に開放。カフェ、ダイニング、バーも、夜は一般に開放され、どなたでもご利用になれます。



## ■東京駅前常盤橋プロジェクト “TOKYO TORCH”

TOKYO TORCH (トウキョウトーチ) は、三菱地所株式会社による、東京駅日本橋口前に位置する常盤橋街区の開発プロジェクトで、東京駅周辺で最大となる敷地面積 3.1ha に及ぶ大規模複合再開発です。「日本を明るく、元気にする」をプロジェクトビジョンに掲げています。2021 年にオープンする A 棟「常盤橋タワー」(高さ約 212 m、2021 年 6 月末竣工) と、B 棟「TorchTower (トーチタワー)」(高さ約 390m、2027 年度竣工予定) を中心に、店舗やオフィス、ホテルとして人々に開いていきます。

<https://www.mec.co.jp/tokiwabashi/>

## ■キュレーション&ディレクション:コダマシーン(金澤韻+増井辰一郎)



Photo: Una Zhu

アートとデザインの企画・開発ユニット。金澤韻は現代美術キュレーターとして国内外で数多くの展覧会を企画・制作、増井辰一郎は建築・デザイン・現代美術の分野で設計及びマネジメントを行ってきた。2018年、上海にてコダマシーンを設立。20年来培ってきた二人の知識とスキルを合わせ、建築や環境の中にアートをインストールすることで、国境や境界を超えて人と人をつないでいくことを使命とする。

<https://c-d-m.co/>

### 金澤 韻 / Kodama Kanazawa

コダマシーン ファウンダー、アーティスティックディレクター、現代美術キュレーター。東京芸術大学大学院美術研究科、および英国王立芸術大学院大学 (RCA) 現代美術キュレーティングコース修了。熊本市現代美術館など公立美術館での12年の勤務を経て、2013年に独立。2017年4月から2020年3月まで十和田市現代美術館の学芸統括としても活動。これまで国内外で50以上の展覧会に携わる。

### 増井 辰一郎 / Shinichiro Masui

コダマシーン ファウンダー、GM

1976年生まれ。京都大学工学部建築学科卒業。現代美術作家のアシスタントおよびコーディネーター、インテリアデザイン事務所でのデザイナー、グラフィックデザイン事務所でのプロジェクトマネージャーなどを経験し、上海にてコダマシーンを金澤韻と共に設立。空間デザイン、展覧会企画、アート及びデザインのプロジェクトマネジメントを専門に行う。

## ■チームメンバー

チームメンバーとして、東京を拠点にする中原崇志と角尾舞がプロジェクトを共に進行しました。



### 中原 崇志 / Takashi Nakahara

1976年鹿児島県生まれ。ミュージアムにおける常設展示や企画展示の設計を中心としながら、インテリア、空間インスタレーションなど多岐に渡り取り組んでいる。主な作品に、21\_21 DESIGN SIGHT 会場構成、日本科学未来館の常設展示、上海万博日本産業館 INAX ブース、「石川直樹展「島は、山。」 island ⇄ mountain」、「INPEX MUSUM」、「石岡瑛子展」(東京都現代美術館)、「ファッション イン ジャパン 1945-2020—流行と社会」(国立新美術館)。

<https://takashi-nakahara.com/>

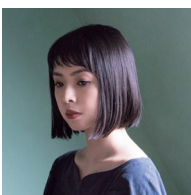


Photo: Harumi Shimizu

### 角尾 舞 / Mai Tsunoo

「デザインを伝えること」を軸に、執筆や展覧会構成、PR企画を行う。「日経デザイン」などでの執筆のほか、東京大学生産技術研究所70周年記念展示「もしかする未来工学×デザイン」(国立新美術館、2018年)の構成、「虫展—デザインのお手本」(21\_21 DESIGN SIGHT、2019年)のテキスト執筆など。 <https://www.ocojo.jp/>

本件に関するお問合せ先

HOW INC. MAIL [pressrelease@how-pr.co.jp](mailto:pressrelease@how-pr.co.jp) TEL 03-5414-6405 FAX 03-5414-6406